

主体的・対話的で深い学び

現行の学習指導要領のポイントの一つに『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善があります。やるべきことは、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で授業改善を進めることです。授業を改善することです。表現を変えれば、「アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善」となります。

では、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」とは、どのようなものなのでしょうか。久しぶりに、「ふくしまの『授業スタンダード』」を見てみました。「主体的・対話的で深い学び」という言葉は何度か出てきます。「主体的な学び」や「深い学び」も出てきます。しかし、それがどんなことなのかは書いてありません。3つの学びがどんなものなのかがわからないと、それぞれの視点からの授業改善はおぼつきません。

そこで、次の表を見てください。こうなれば、だいぶ授業との結び付きが見えてくるのではないのでしょうか。

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
① 興味や関心を高める	⑥ 互いの考えを比較する	⑬ <u>思考して問い続ける</u>
② <u>見通しを持つ</u>	⑦ 多様な情報を収集する	⑭ 知識・技能を習得する
③ 自分と結び付ける	⑧ <u>思考を表現に置き換える</u>	⑮ 知識・技能を活用する
④ 粘り強く取り組む	⑨ 多様な手段で説明する	⑯ 自分の思いや考えを結び付ける
⑤ <u>振り返って次へつなげる</u>	⑩ 先哲の考え方を手掛かりとする	⑰ 知識や技能を概念化する
	⑪ 共に考えを創り上げる	⑱ <u>自分の考えを形成する</u>
	⑫ 協働して課題解決する	⑲ 新たなものを創り上げる

全部で19個あります。これらを、意識しなくても今までやってきたもの、意識してやるようにしているもの、今までは意識してこなかったものに分けてみます。すると、授業改善に向けての課題が見えてくるのではないのでしょうか。

今年度の現職教育では、学習課題、自力解決、振り返りとの関わりから、特に②、⑤、⑧、⑬、⑱を重点的に取り上げています。授業改善は、やることを絞った方が効果は上がりやすいと思います。ぜひ、普段の授業を振り返り、足りないものや抜けていたものを確認し、課題を明らかにして、「わかる」授業を創り上げていきましょう。